

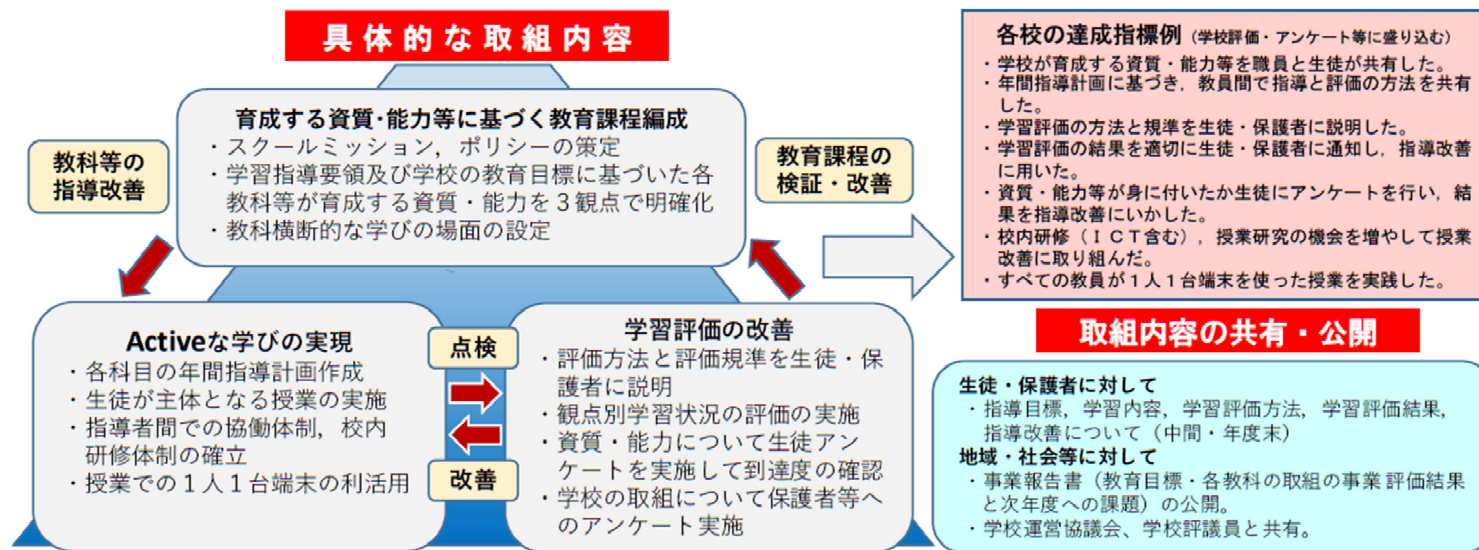
R4年度入学生から新学習指導要領が実施となり、学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメントの一環として、「指導と評価の一体化」を進めていくことが求められています。また、教育課程を家庭や地域社会と共有する「社会に開かれた教育課程」の実現も重要課題です。これらを踏まえ、前プロジェクトの方向性を継続しながら、県立高等学校の教育力向上を図るプロジェクト「Active School Kai Project」を、R4年度からの3か年計画で実施しています。

R4～R6年度 山梨県高等学校学力向上プロジェクト

## 未来を拓く Active School Kai Project

- 概要**
- ◆ **改** 主体的・対話的で深い学びの視点による授業と学習評価の改善に向けた取組を徹底し、生徒の学習意欲の向上と、教員の指導改善を図る。
  - ◆ **回** 学習指導要領の理念とスクールミッション、スクールポリシーに基づき、各学校の教科等の指導において育成する資質・能力を定め、達成状況の評価と改善を図るPDCAサイクルを回す。
  - ◆ **開** 学校全体及び各教科の目標と、指導・評価・改善の取組について、生徒・保護者に積極的に通知するとともに、年度末に各校のホームページで公開し、社会に開かれた教育課程を実現する。
  - ◆ **Kai** 1人1台端末を活用して、kai.edで繋がる生徒と教員が情報活用能力を高め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する。またそのための校内研修体制を確立する。

### 具体的な取組内容



ToDo

R4年度

R5年度

R6年度

R4入学生  
学力目標  
設定

生徒授業アンケート  
保護者等アンケート

事業  
中間評価  
検証・改善

生徒授業アンケート  
保護者等アンケート

事業  
年次評価  
検証・改善

1,2年次で実施

1～3年次で実施

事業の  
検証・改善  
HP公開

|       |  |     |       |   |  |
|-------|--|-----|-------|---|--|
| 学校番号  |  | 学校名 |       |   |  |
| 全・定・通 |  | 学年  | 在籍生徒数 | 名 |  |

各学校における卒業時に身に付けさせたい資質・能力です。

| 各教科の取組 |    | 身に付けさせたい資質・能力 |  | 中間評価 | 年度末評価 | 次年度への課題 |
|--------|----|---------------|--|------|-------|---------|
| 教科     | 知識 |               |  | 3.3  | 3.9   |         |
| 国語     |    |               |  | 3.5  | 3.9   |         |
|        |    |               |  | 3.8  | 4.2   |         |
| 地公     |    |               |  |      |       |         |
| 数学     |    |               |  |      |       |         |
| 理科     |    |               |  |      |       |         |
| 英語     |    |               |  |      |       |         |
| 芸術     |    |               |  |      |       |         |
| 家庭     |    |               |  |      |       |         |
| 保健     |    |               |  |      |       |         |

教育目標や育てたい生徒像をふまえ、学習指導要領の理念とスクールポリシーに基づき、生徒の特性等を踏まえて、教科等の指導において育成する資質・能力を定めています。

生徒による達成度の5段階評価のアンケート結果です。年度の中間と年度末の2回実施し、その変化を見取ります。そしてこの数値を一つの材料として、授業担当の教員の評価をふまえて、生徒の学習改善や教員の指導改善にいかすことに活用しています。目標や取組は学校ごとに異なるため、他校の数値との単純な比

|    |                                                               |  |  |  |
|----|---------------------------------------------------------------|--|--|--|
|    |                                                               |  |  |  |
|    |                                                               |  |  |  |
|    |                                                               |  |  |  |
|    |                                                               |  |  |  |
|    |                                                               |  |  |  |
|    |                                                               |  |  |  |
| 総評 | <p>教科の特性から、卒業時の目標を記載し、評価は年度末のみとして各学年の生徒の達成度を確認することとしています。</p> |  |  |  |

| 「授業アンケート」高評価数値の推移（％：小数点第1位まで）                    |               | R6中間 | R6度末 |
|--------------------------------------------------|---------------|------|------|
| 授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う            | 生徒アンケートの結果です。 |      |      |
| 話し合い, 討論, 発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う    |               |      |      |
| 他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う              |               |      |      |
| ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う               |               |      |      |
| 活用・探究など, 学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う |               |      |      |
| 授業や単元の終わりに, 目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う |               |      |      |
| 家庭学習(宿題や課題)と授業を, 有機的に結び付けることができた ①強くそう思う, ②そう思う  |               |      |      |
| 授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う      |               |      |      |

保護者の学校評価アンケート等の結果からまとめたものです。

[illegible]

## Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

|                          |    |                                                                                                                                                                                                                                                           |      |       |       |
|--------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|-------|
| 学校番号                     | 16 | 学校名                                                                                                                                                                                                                                                       | 笛吹高校 |       |       |
| 全・定・通                    | 全  | 学年                                                                                                                                                                                                                                                        | 1    | 在籍生徒数 | 217 名 |
| 教育目標<br>(学力に関するもの)       |    | ・自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成<br>・広い視野を持ち、地域社会の形成に進んで参画できる生徒の育成                                                                                                                                                                                         |      |       |       |
| 育てたい生徒像<br>身に付けさせたい資質・能力 |    | I 習得力：学びに必要な環境をつくりあげ、様々な知識や技能を習得する<br>理解力：知識・技能を活用し、事象や課題を多面的、総合的に理解する<br>II 思考力：習得した知識・技能や収集した情報を状況に応じて選択、活用し、考えを広げる<br>表現力：他者の考えを受信し、状況に応じた適切で効果的な方法によって表現する<br>III 継続力：自分の可能性を信じ、学び（学習・諸活動）のふり返りや調整を繰り返しながら進んでいく<br>参画力：他者と協働して足元の課題を探究し、社会への問題提起につなげる |      |       |       |

### 各教科の取組

| 教科 | 身に付けさせたい資質・能力                                                      | 中間評価 | 年度末評価 | 次年度への課題                                                                         |
|----|--------------------------------------------------------------------|------|-------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 国語 | 実社会に必要な基礎的な国語の知識や技能の習得に主体的に取り組む力。                                  | 4.3  | 4.2   | 実社会に必要な基礎的な国語の知識や技能の習得を行い主体的に取り組む力を養うようにする。                                     |
|    | 習得した基礎的な知識や技能を活用しながら適切に情報を扱う能力。                                    | 4.2  | 4.2   | 習得した基礎的な知識や技能を活用しながら適切に情報を扱う能力を更に高めるようにする。                                      |
|    | 言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わり合う能力。                             | 4.2  | 4.1   | 言語文化の担い手として、自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わり合う能力を高めるようにする。                                 |
| 地公 | 現代の諸課題を歴史的な諸事象や地理的要素と関連させ主体的に考え、解決しようとする態度。                        | 3.7  | 3.8   | 現在の世界や日本が抱える様々な課題について、既存の知識を活用し、多角的に考察する力を養えるようにする。                             |
|    | 地理や歴史に関する諸事象について多面的・多角的に考察し理解する力。                                  | 3.7  | 4.0   | 世界や日本の歴史について、当時の史料資料を有効に活用し、表現できる力を身につける。                                       |
|    | 身に付けた知識と知識を相互に関連付け表現する力。                                           | 3.6  | 4.1   | 自ら調べまとめた内容を発表したり、他者と協議することで、分かりやすく伝えられる力を醸成できるよう指導する。                           |
| 数学 | 基礎的な公式の理解や計算技能を理解し、正確に計算できる技能を身に付けたり、数式を事象に活用できる。                  | 4.2  | 4.3   | 授業や週末課題の中で、公式を利用したり計算の工夫を行う問題を繰り返し演習することで、計算技能を身につけていきたい。                       |
|    | 身近にある事象を数学的に考え、数式やグラフなどの図を利用して表現することができる。                          | 4.1  | 4.0   | グループワークや発表の活動を多く取り入れ、数式やグラフを利用した自らの考えを表現する機会を増やしていきたい。                          |
|    | ICTを活用して問題解決に取り組み、その過程を振り返りながら、さらに考察を深めたり、課題解決に向けて粘り強く考えを解決しようとする。 | 4.1  | 3.8   | 計画的にコンテンツを利用させたい。ICTを用いてグラフの変化を考察させる時間をもう少し多くとり、考えを深めさせていきたい。                   |
| 理科 | 自然の事物・現象についての知識や、観察・実験などの技能を習得し、科学的に理解することができる。                    | 3.9  | 3.9   | 小テストによる知識の定着を図ったため、一定の効果が見られた。実験操作においてはミスも多いため、生徒の喚起が必要だ。                       |
|    | 自然の事物・現象について、科学的に探究するために必要な思考や表現をすることができる。                         | 4.0  | 3.9   | 計算問題になると苦手に感じる生徒が多いが、繰り返し取り組むことで改善が見られる。今後もしっかり取り組む。                            |
|    | 自然の事物・現象に主体的に関わり、継続的に学びに向かうとともに、周囲と協働して取り組むことができる。                 | 4.2  | 4.1   | 感想の書き方や提出物の提出状況によって主体性を見ているが、点数のたまりによる生徒が多く、それを主体性とよぶか疑問である。                    |
| 英語 | 日常的・社会的な話題について、読み取った情報や知識を相互に結び付け、概要や要点、詳細を目的に応じて捉え理解することができる。     | 4.0  | 3.9   | 小テストや週末課題を活用して知識の定着を図り、自ら考え理解しようとする姿勢をさらに養いたい。                                  |
|    | 日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、自分の考えや感想を論理的に提示したりできる。                 | 3.9  | 3.8   | パフォーマンステストや発表の活動を通して、基本的な英文を身につけて、発信する機会を増やしていきたい。                              |
|    | 日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、自分の感想や考えを主体的に伝え合おうとする。                 | 4.0  | 3.8   | ペアワークや話し合いに積極的に取り組み、自分の考えを表現していた。発表などを取り入れ、英語で話す活動を充実させていきたい。                   |
| 芸術 | 芸術に関する各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための基本的技能を身につける。                     | 4.1  | 4.0   | 基本的な知識や技能の習得に時間をかけて、表現の意図と表現技術がつながるように工夫をした。                                    |
|    | 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや楽しさを味わったりすることができる。                              | 3.9  | 3.9   | グループ活動等を通して、他者の見方、考え方を表現に生かすように工夫した。                                            |
|    | 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や芸術を創造していく態度を養うとともに、豊かな情操を培う。       | 3.8  | 3.9   | 生徒にとって身近な題材を取り入れ、芸術に対する垣根を低くする工夫をした。                                            |
| 家庭 | 生活の営みを総合的にとらえ、社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むための技能。                     | 4.1  | 4.1   | 実生活に結びつけた事例を事例に出しながら授業展開し、実験や実習を通して、基礎的な知識と技術を身に付けさせる。                          |
|    | 生涯を見通して、生活の中から課題を見つけ、考察したことを論理的に表現するようになり課題を解決する力。                 | 3.9  | 4.1   | グループ活動を通して、他者の意見に耳を傾け、自身の考えを発表することができた。生活の中での課題を見い、課題解決のために自分の考えをまとめて、表現する力に目標。 |
|    | 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に主体的に取り組んだり、実践しようとする態度。                          | 4.2  | 4.0   | 単元を学習する前に目標を確認させ、振り返りをするを通して、自身の学びの記録を残す指導をしていく。ICTの有効活用を行い、情報処理能力の育成を目指す。      |
| 保健 | 各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技術を身に付ける。                | 4.3  | 4.2   | 運動に興味を持ち、基礎的な知識技能を習得させ、主体的に取り組む態度を身につけさせる。                                      |
|    | 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、創造的な解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を養う。       | 4.3  | 4.2   | 自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げ、運動を継続するための工夫を行えるようにする。                                |
|    | 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かに活動ある生活を営む態度を養う。       | 4.2  | 4.1   | 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるよう、正しい判断に基づく意思決定や行動選択を適切に行えるようにする。                       |

[illegible]

| 「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)                    | R6中間  | R6度末  |
|--------------------------------------------------|-------|-------|
| 授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う, ②そう思う            | 90.0% | 91.8% |
| 話し合い, 討論, 発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う, ②そう思う    | 87.7% | 92.4% |
| 他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う, ②そう思う              | 95.8% | 97.0% |
| ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う, ②そう思う               | 91.7% | 92.2% |
| 活用・探究など, 学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う, ②そう思う | 83.0% | 85.8% |
| 授業や単元の終わりに, 目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う, ②そう思う | 85.0% | 85.6% |
| 家庭学習(宿題や課題)と授業を, 有機的に結び付けることができた ①強くそう思う, ②そう思う  | 73.0% | 77.6% |
| 授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う, ②そう思う      | 77.4% | 80.5% |

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

Active Kai Project における「授業アンケート」高評価数値は、すべて学年において中間から年度末に向けて数値が上昇している。学校評価アンケートにおいても、主体的に対話的な活動についてやり一人の学びを意識した指導がなされていると8割近い生徒が回答している。それに対して、保護者アンケートから得られた肯定的な回答は約9割と生徒と間には2割の差がある。保護者には校内での生徒の様子を知ってもらうよう、授業参観や学校行事への参加への呼びかけなど、ICT機器などを利用しての情報発信や情報共有を更に進める必要がある。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

令和6年度の生徒における中間評価から年度末評価については、すべての項目について高評価の数値が上昇している。1年生の特徴としては、「話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた」の項目が2・3年生に比べてかなり良いことである。「産業社会と人間」や「FGグローバル」における笛吹きと連携した活動において言語活動に多く取り組んだことがその要因の一つとして考えられるが、他教科も含め今後も地域と連携した授業や活動等を行い、生徒が主体的に取り組んで知識・技能を活用できる力を身につけさせたい。



## Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

| 学校番号                     | 16                                                                | 学校名                                                                                                                                                                                                                                                     | 笛吹高校  |                                                                                                         |     |   |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|
| 全・定・通                    | 全                                                                 | 学年                                                                                                                                                                                                                                                      | 2     | 在籍生徒数                                                                                                   | 224 | 名 |
| 教育目標<br>(学力に関するもの)       |                                                                   | ・自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成<br>・広い視野を持ち、地域社会の形成に進んで参画できる生徒の育成                                                                                                                                                                                       |       |                                                                                                         |     |   |
| 育てたい生徒像<br>身に付けさせたい資質・能力 |                                                                   | Ⅰ 習得力：学びに必要な環境をつくりあげ、様々な知識や技能を習得する<br>理解力：知識・技能を活用し、事象や課題を多面的、総合的に理解する<br>Ⅱ 思考力：習得した知識・技能や収集した情報を状況に応じて選択、活用し、考えを広げる<br>表現力：他者の考えを受信し、状況に応じた適切で効果的な方法によって表現する<br>Ⅲ 継続力：自分の可能性を信じ、学び（学習・諸活動）のふり返りや調整を繰り返ししながら進んでいく<br>参画力：他者と協働して足元の課題を探究し、社会への問題提起につなげる |       |                                                                                                         |     |   |
| 各教科の取組                   |                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                         |       |                                                                                                         |     |   |
| 教科                       | 身に付けさせたい資質・能力                                                     | 中間評価                                                                                                                                                                                                                                                    | 年度末評価 | 次年度への課題                                                                                                 |     |   |
| 国語                       | 実社会に必要な標準的な国語の知識や技能の習得に主体的に取り組む力。                                 | 4.0                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.2   | 実社会に必要な発展的な国語の知識や技能の習得を行い主体的に取り組む力を養うようにする。                                                             |     |   |
|                          | 習得した標準的な知識や技能を活用しながら適切に情報を扱う能力。                                   | 4.1                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.1   | 習得した標準的な知識や技能を活用しながら適切に情報を扱う能力を更に高めるようにする。                                                              |     |   |
|                          | 言語文化の担い手として、より一層自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする能力。                      | 3.8                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.0   | 言語文化の担い手として、自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする力をより高めるようにする。                                                      |     |   |
| 地公                       | 歴史的な諸事象や地理的要素に関する情報を正確に収集・分析し、適切に活用する力。                           | 3.8                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.8   | 現在の世界や日本が抱える様々な課題について、既存の知識を活用し、多角的に考察する力を養えるようにする。                                                     |     |   |
|                          | 地理や歴史に関わる諸事象について多面的・多角的に考察し表現する力。                                 | 3.7                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.7   | 世界や日本の歴史について、当時の史料資料を有効に活用し、表現できる力を身につける。                                                               |     |   |
|                          | 身に付けた知識と知識を相互に関連付け、課題を見出し、主体的に解決しようとする態度。                         | 3.9                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.8   | 自ら調べた内容を発表したり、他者と協議することで、分かりやすく伝える力を醸成できるよう指導する。                                                        |     |   |
| 数学                       | 基礎的かつ標準的な公式を理解し、正確かつ迅速に計算できる技能を身につけたり、数式を事象に活用できる。                | 4.0                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.9   | 演習時間を多くとり、計算の正確さと迅速さを意識した指導をしている。                                                                       |     |   |
|                          | 身近にある事象を数学的に考え、数式やグラフなどの図を利用して表現し、それを処理して結果を解釈できる。                | 3.7                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.4   | グループ活動やレポート課題を計画的に取り入れ、考えを数式やグラフを用いて論理的に説明できるように丁寧に指導していく。                                              |     |   |
|                          | ICTを積極的に活用して問題解決に取り組み、その過程を振り返りながら、さらに考察を深めたり、社会に還元しようとする。        | 3.7                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.5   | 家庭学習でもICTを自ら積極的に活用できるよう、課題の提示方法を改善したり情報提供していく。                                                          |     |   |
| 理科                       | 自然の事物・現象についての知識や、観察・実験などの技能を習得し、科学的に理解することができる。                   | 3.9                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.0   | 小テストによる知識の定着を図ったため、一定の効果が見られた。実験操作においてはミスも多いため、注意力の喚起が必要だ。                                              |     |   |
|                          | 自然の事物・現象について、科学的に思考や表現をしながら探究することができる。                            | 3.7                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.0   | 計算問題になると苦手に感じる生徒が多いが、繰り返し取り組むことで改善が見られる。今後も粘り強く取り組む。模試の対策が課題。                                           |     |   |
|                          | 自然の事物・現象に主体的に関わり、継続的に学びに向かうとともに、周囲と協働して取り組むことができる。                | 3.9                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.9   | 感想の書き方や提出物の提出状況によって主体性を見ているが、点数のためにやる生徒が多く、それを主体性とよぶか疑問である。                                             |     |   |
| 英語                       | 日常的・社会的な話題について、読み取った情報や知識を相互に結び付け、概要や要点、詳細を目的に応じて捉え理解することができる。    | 4.0                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.0   | 小テストへの取り組みを通して知識の定着を図ることができた。自ら考えをまとめて伝えようとする力をさらに養いたい。                                                 |     |   |
|                          | 日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、自分の考えや感想を論理的に話したり書いたりできる。              | 3.7                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.9   | パフォーマンステストや発表の活動を通して、多様な英文を身につけ、発信する機会を増やしていきたい。                                                        |     |   |
|                          | 日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、自分の感想や考えを主体的に伝え合い、社会参画について考えようとする。     | 3.8                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.9   | ペアワークや話し合いに積極的に取り組み、自分の考えを表現していた。発表などを取り入れ、さらに深く考える力を身につけさせたい。                                          |     |   |
| 芸術                       | 芸術に関する各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付ける。                       | 4.0                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.0   | 基本的な知識や技能の習得に時間をかけて、表現の意図と表現技能がつながるような工夫をした。                                                            |     |   |
|                          | 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや楽しさを味わったりすることができる。                             | 4.0                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.3   | グループ活動等を通して、他者の見方、考え方を表現に生かすように工夫した。                                                                    |     |   |
|                          | 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことで、豊かな情操を培う。       | 3.6                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.3   | 生徒にとって身近な題材を取り入れ、芸術に対する垣根を低くする工夫をした。                                                                    |     |   |
| 家庭                       | 生活の課題を自分事に捉え、社会との関わりについて理解を深め、ICT活用により、情報収集・分析する力が身についている。        | 3.9                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.7   | 各分野において、生徒に身に付けさせたい能力を明確にし、対話的な授業展開ができた。実験や実習での学びを実生活でアウトプットする力を養う。                                     |     |   |
|                          | 生涯を見通して、生活の中から課題を見つけ、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力。                 | 3.8                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.7   | 他者の意見に耳を傾け、自身の考えを論理的に他者に伝える指導をする。生活の中での課題を自分事に捉え、課題解決する思考方法を身に付ける必要がある。                                 |     |   |
|                          | 協働活動を通して、よりよい社会の構築に主体的に取り組んだり、地域の生活を構築し、実践しようとする態度。               | 3.9                                                                                                                                                                                                                                                     | 3.8   | グループワークを通して、協働的な学びを意識した。また、振り返りを行うことにより、自身の学びの記録を残す指導をしていく。ICTの有効活用を行い、情報処理力から、柔軟に考える力である情報編集力を養う必要がある。 |     |   |
| 保体                       | 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能の習得に主体的に取り組む姿勢。      | 4.1                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.2   | 運動に興味を持ち、基礎的な知識技能を習得させ、主体的に取り組む態度を身に付けさせる。                                                              |     |   |
|                          | 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力。         | 4.1                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.0   | 自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げ、運動を継続するための工夫を行えるようにする。                                                        |     |   |
|                          | 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かに活動する生活を含むための行動力や参画力。 | 4.2                                                                                                                                                                                                                                                     | 4.2   | 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるよう、正しい判断に基づく意思決定や行動選択を適切に行えるようにする。                                               |     |   |

| 教科                         | 身に付けさせたい資質・能力                                                      | 中間評価 | 年度末評価 | 次年度への課題                                                      |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------|------|-------|--------------------------------------------------------------|
| 情報                         | 情報を収集・処理・分析・表現する基礎的な基本的な技術を身に着ける。                                  | 4.1  | 4.1   | 生徒の基礎的な情報活用能力は学習できたので、さらなる技術向上を目指したい。                        |
|                            | 情報の活用にも思考を深め、適切な判断と表現ができる。                                         | 3.8  | 4.2   | 分析力と表現力に時間を割き、生徒の情報活用能力の育成に努めたい。                             |
|                            | 情報の収集・処理・分析・表現に関心を持ち、その活用にも主体的に取り組むとともに、協同的に探究し、それを表現できるようにする。     | 3.9  | 4.0   | 個々の探究に加え、協同的な活動を展開する中で、自らの情報活用能力の育成に努めたい。                    |
| 農業                         | 習得した知識・技能を基礎として専門性の増した学習内容の深化を図り、産業人としての自立した姿勢を有している。              | 3.7  | 3.5   | 再度1年次の基礎学習を振り返らせながら知識の定着を図り、さらに専門学習を積み上げていきたい。               |
|                            | 派遣実習などに真摯に取り組み、すすんで他者と関わり社会に参画する態度とコミュニケーション能力を有している。              | 4.1  | 4.2   | 地域活動から地域や住民との関わり継続し、幅広い知識や参画力、コミュニケーション力を高めしていきたい。           |
|                            | 自己実現の場として農業クラブ活動を理解し、活動を通じて情報を収集・活用・表現する能力を駆使し、学びを広げるための応用力を身に付けた。 | 3.8  | 4.1   | プロジェクト学習から調査方法やデータ、活動写真などの記録の重要性を再認識させまとも発表につなげていきたい。        |
| 商業                         | ビジネスにおける商業活動一般の基礎的な知識を身に着ける。                                       | 4.3  | 3.9   | 基礎的な商業一般の知識の習得に努めたい。                                         |
|                            | 情報のリテラシーを理解し、ICTを活用し情報社会において生きる力を身に着ける。                            | 4.4  | 4.2   | 情報リテラシーの意味を再確認させ、真摯に取り組み、学習習慣を養う。                            |
|                            | ビジネスにおける探究的な活動を通して、知識をひろめ、それを表現できるようにする。                           | 4.0  | 3.9   | 協同的な活動を展開する中で、商業活動における知識の育成に努めたい。                            |
| F<br>グ<br>ロ<br>ー<br>カ<br>ル | 実社会の中で多くの先人が取り組んできた課題や今後起こりうる課題にかかわる知識・技能                          | 3.8  | 3.9   | 昨年度から引き続き取り組んだため、新しい知識を積み上げることができたようだ。                       |
|                            | 収集・分析した情報をもとに課題を設定し、課題解決に向けて必要な活動で思考・判断・表現する力。                     | 4.0  | 3.9   | 実践に基づいたデータ整理や分析が自立した。情報収集をもう少し強化するため、次年度は「情報」の復習する時間を作りたい。   |
|                            | 互いを尊重し、多様な価値観を受け止めながらコミュニケーションを図り、よりよい社会づくりに参画しようとする態度。            | 4.0  | 4.0   | 地域の方々を支えられ、やりたいことに挑戦した生徒が多い。多様な生徒のニーズに応えるための方策について検討する余地がある。 |
| 総探                         |                                                                    |      |       |                                                              |
|                            | 社会の担い手として、多くの人の声に耳を傾け、自身の行動に反映させる力。                                | 4.0  | 3.7   |                                                              |
|                            | 自分自身の良さや弱さを、客観的に分析し、社会参画に生かそうとする力。                                 | 3.8  | 3.7   |                                                              |
|                            | 生涯にわたって自己の生き方を探求し、自己の充実や生きがいを見出す力。                                 | 3.8  | 3.6   |                                                              |
|                            |                                                                    |      |       |                                                              |
|                            |                                                                    |      |       |                                                              |

| 「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)                  |  |  | R6中間  | R6度末  |
|------------------------------------------------|--|--|-------|-------|
| 授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う、②そう思う           |  |  | 88.3% | 91.0% |
| 話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う、②そう思う     |  |  | 81.1% | 86.7% |
| 他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う、②そう思う             |  |  | 92.0% | 92.9% |
| ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う、②そう思う              |  |  | 88.3% | 91.6% |
| 活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う、②そう思う |  |  | 81.1% | 86.5% |
| 授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う、②そう思う |  |  | 82.1% | 84.3% |
| 家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた ①強くそう思う、②そう思う  |  |  | 73.5% | 80.1% |
| 授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う、②そう思う     |  |  | 79.9% | 86.9% |

## 保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

Active Kai Project における「授業アンケート」高評価数値は、すべて学年において中間から年度末に向けて数値が上昇している。学校評価アンケートにおいても、主体的で対話的な活動についてや一人一人の学びを意識した指導がなされていると8割以上の生徒が回答している。それに対し、保護者アンケートから得られた肯定的な回答は約6割と生徒との間には2割の差がある。保護者には校内での生徒の様子を知ってもらえるよう、授業参観や学校行事への参加への呼びかけるとともに、ICT機器などを利用しているの情報発信や情報共有を更に進める必要がある。

## 授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

令和6年度の生徒における中間評価から年度末評価については、すべての項目について高評価の数値が上昇している。それに対して教員における同様のアンケートの結果は数パーセント程度であるが下がっている。2年生はICT機器の活用率が他の学年より高いのが特徴で、3人に2人が肯定的意見を述べている。今年の2年生のICT機器の使い方を研究することにより、他の学年への活用率の向上が見込まれるので、相互授業参観などを行い、ICT機器を利用した授業の普及に努めたい。

## Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

|                          |    |                                                                                                                                                                                                                                                           |      |       |     |   |
|--------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|-----|---|
| 学校番号                     | 16 | 学校名                                                                                                                                                                                                                                                       | 笛吹高校 |       |     |   |
| 全・定・通                    | 全  | 学年                                                                                                                                                                                                                                                        | 3    | 在籍生徒数 | 204 | 名 |
| 教育目標<br>(学力に関するもの)       |    | ・自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成<br>・広い視野を持ち、地域社会の形成に進んで参画できる生徒の育成                                                                                                                                                                                         |      |       |     |   |
| 育てたい生徒像<br>身に付けさせたい資質・能力 |    | I 習得力：学びに必要な環境をつくりあげ、様々な知識や技能を習得する<br>理解力：知識・技能を活用し、事象や課題を多面的、総合的に理解する<br>II 思考力：習得した知識・技能や収集した情報を状況に応じて選択、活用し、考えを広げる<br>表現力：他者の考えを受信し、状況に応じた適切で効果的な方法によって表現する<br>III 継続力：自分の可能性を信じ、学び（学習・諸活動）のふり取りや調整を繰り返しながら進んでいく<br>参画力：他者と協働して足元の課題を探究し、社会への問題提起につなげる |      |       |     |   |

## 各教科の取組

| 教科 | 身に付けさせたい資質・能力                                                       | 中間評価 | 年度末評価 | 次年度への課題                                                                                               |
|----|---------------------------------------------------------------------|------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語 | 実社会に必要な発展的な国語の知識や技能の習得に主体的に取り組む力。                                   | 4.1  | 4.1   | 実社会に必要な発展的な国語の知識や技能の習得を行い主体的に取り組む力を養うようにする。                                                           |
|    | 習得した発展的な知識や技能を活用しながら適切に情報を扱う能力。                                     | 4.0  | 4.1   | 習得した発展的な知識や技能を活用しながら適切に情報を扱う能力を更に高めるようにする。                                                            |
|    | 言語文化の担い手として、自覚を発展的に深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする能力。                        | 4.0  | 4.1   | 言語文化の担い手として、自覚を発展的に深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする力をより一層高めるようにする。                                              |
| 地公 | 現代の諸課題を歴史的な諸事象や地理的要素と関連させて深く考え、将来社会に主体的に参画できる力。                     | 4.2  | 4.3   | 現在の世界や日本が抱える様々な課題について、既存の知識を活用し、多角的に考察する力を養えるようにする。                                                   |
|    | 地理や歴史に関わる諸事象について多面的・多角的に考察し理解する力。                                   | 4.2  | 4.4   | 世界や日本の歴史について、当時の史料資料を有効に活用し、表現できる力を身につける。                                                             |
|    | 身に付けた知識と知識を相互に関連付け表現したり、他者に自分の言葉で伝える力。                              | 4.1  | 4.3   | 自ら調べまとめた内容を発表したり、他者と協議することで、分かりやすく伝える力を醸成できるよう指導する。                                                   |
| 数学 | 発展的な公式や体系的な概念の理解、及び必要な計算技能を理解し、正確に計算できる技能を身に付けたり、数式を事象に活用できる。       | 4.1  | 3.8   | 複雑な公式でもその意味を理解して活用できるように、多くのパターンの問題に取り組ませたい。高度な計算力を身に着けさせたい。                                          |
|    | 身近にある事象を数学的に考え、数式やグラフなどの図を利用して表現し、それを処理して結果を統合的・発展的に解釈できる。          | 4.0  | 3.8   | 数式やグラフを用いた考え方を共有しあい、課題の条件を変えて考察を行うなど発展的に考察する機会を作っていくたい。                                               |
|    | ICTを積極的に活用して問題解決に取り組み、その過程を振り返りながら、さらに考察を深めたり、社会に還元しようとする。          | 3.9  | 3.7   | ICTを考察を深めるためのツールとして積極的に活用できるように、課題やレポートの内容を吟味して提示していきたい。                                              |
| 理科 | 自然の事物・現象についての知識や、観察・実験などの技能を習得し、科学的に理解することができる。                     | 4.0  | 4.3   | 小テストによる知識の定着を図ったため、一定の効果が見られた。実験操作においてはミスも多いため、注意力の喚起が必要だ。                                            |
|    | 自然の事物・現象について、科学的に思考や表現をしながら探究することができる。                              | 4.3  | 4.1   | 対話的な学習を進める中で、発言ができる生徒が多くなっていった。知識の詰め込みよりもこういふ点を伸ばしていきたい。                                              |
|    | 自然の事物・現象に主体的に関わり、継続的に学びに向かふとともに、学びの成果を社会参画に活かそうとすることができると。          | 4.2  | 4.2   | 考えを文章化できるようになっているが、内容に深みが不足しているのが課題である。                                                               |
| 英語 | 日常的・社会的な話題について、読み取った情報や知識を相互に結び付け、概要や要点、詳細を目的に応じて捉え理解することができる。      | 4.2  | 4.1   | 小テストや週末課題への取り組みを通して知識の定着を図ることができた。多読の機会を増やし、理解する力をさらに養いたい。                                            |
|    | 日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、適切な根拠や事例をあげて自分の考えや感想を論理的に話したり書いたりできる。    | 4.2  | 4.1   | パフォーマンステストや発表の活動を通して、論理的に意見を構築することができるような機会を増やしていきたい。                                                 |
|    | 日常的・社会的な話題について、多様な語句や文を用いて、自分の感想や考えを主体的に伝え合い、社会にはたらきかけようとする。        | 4.2  | 4.1   | ペアワークや話し合い、発表などを取り入れ、活動を充実させていきたい。社会課題について英語で触れる機会を増やしていきたい。                                          |
| 芸術 | 芸術に関する各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付ける。                         | 3.9  | 4.5   | 基本的な知識や技能の習得に時間をかけて、表現の意図と表現技能がつながるような工夫をした。                                                          |
|    | 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや楽しさを味わったりすることができると。                              | 3.8  | 4.6   | グループ活動等を通して、他者の見方、考え方を表現に生かすように工夫した。                                                                  |
|    | 生涯にわたって芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことで、豊かな情操を培う。        | 3.9  | 4.5   | 生徒にとって身近な題材を取り入れ、芸術に対する垣根を低くする工夫をした。                                                                  |
| 家庭 | 生活の営みを総合的にとらえ、社会との関わりについて理解を深め、専門職の知識・技術の習得をし、生活を主体的に営むための技能。       | 4.3  | 4.1   | 各分野において、生徒に身に付けさせたい能力を明確にし、対話的な授業展開ができた。実験や実習での学びを実生活でアウトプットする力を養う。                                   |
|    | 他者の意見に耳を傾け、自身の考えを論理的に他者に伝える力。生活の中での課題を自分事に捉え、課題解決する思考方法を身に付ける必要がある。 | 4.3  | 4.2   | 他者の意見に耳を傾け、自身の考えを論理的に他者に伝える指導をする。生活の中での課題を自分事に捉え、課題解決する思考方法を身に付ける必要がある。                               |
|    | 継続的に様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に主体的に取り組んだり、地域の生活を構築し、実践する参画力。               | 4.3  | 4.1   | グループワークを通して、協働的な学びを意識した。また、振り返りをするにより、自身の学びの記録を残す指導をしていく、ICTの有効活用を行い、情報処理力から、柔軟に考える力である情報編集力を養う必要がある。 |
| 保体 | 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能の習得に主体的に取り組む姿勢。        | 3.9  | 4.2   | 運動に興味を持ち、基礎的な知識技能を習得させ、主体的に取り組む態度を身に付けさせる。                                                            |
|    | 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力。           | 3.9  | 4.1   | 自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げ、運動を継続するための工夫を行えるようにする。                                                      |
|    | 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、動く・豊かに活動する生活を営むための行動力や参画力。   | 3.9  | 4.2   | 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続できるよう、正しい判断に基づく意思決定や行動選択を適切に行えるようにする。                                             |

| 教科 | 身に付けさせたい資質・能力                                                  | 中間評価 | 年度末評価 | 次年度への課題                                                                     |
|----|----------------------------------------------------------------|------|-------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 商業 | 生産・流通・金融など経済社会が取り巻く環境の変化がビジネスにおよぼす影響を理解できる。                    | 3.7  | 3.8   | ICTを活用することにより、単なる授業だけでなくより具体的な経済活動について考察する。                                 |
|    | ビジネスの動向課題について地域産業や経済社会の持続的な発展を見出すことができる能力。                     | 3.8  | 3.7   | 地域産業について、講師など依頼しより実践的な授業を展開したい。                                             |
|    | ビジネスの動向課題について自ら学びビジネスに主体のかいっ協動的に取り組む社会に働きかける力を養う。              | 3.7  | 3.8   | 協同的な活動を展開する中で、商業活動における知識の育成に努めたい。                                           |
| 農業 | 学んだことを総合的に判断し、意見発表活動やプロジェクト活動を通して課題発見、情報活用、表現力、自己表現に繋げようとしている。 | 4.1  | 4.0   | 生徒自ら課題に取り組めるような情報提供や自らが情報収集をおこない、主体的かつ意欲的な活動がすすめられるようにしていきたい。               |
|    | 作物の生育と自らの学びの課題を計画立案、実践し、課題解決に向けた手立てを構築する企画力・経営力を身に付けている。       | 4.1  | 4.1   | 1、2年次での学習活動から実践的や応用的に活動できるよう取り組みをしていきたい。                                    |
|    | 授業での学びを自らのキャリア形成に活かすよう周囲と協調し、向上心と自己統制力を身に付け社会に参画しようとする力を有している。 | 4.0  | 4.0   | 自分の進路や将来に向けて、今何が必要で何をしなければならぬのかをしっかりと考えさせたい。                                |
|    |                                                                |      |       |                                                                             |
|    |                                                                |      |       |                                                                             |
|    |                                                                |      |       |                                                                             |
|    |                                                                |      |       |                                                                             |
|    |                                                                |      |       |                                                                             |
|    |                                                                |      |       |                                                                             |
|    |                                                                |      |       |                                                                             |
|    |                                                                |      |       |                                                                             |
| 総探 | 教科横断的な学びと体験的な学びを結びつけ、自分とのつながりが見つける知識・技能                        | 3.9  | 4.1   | AIを活用する際に必要な知識・技能について学習し、各自の課題解決につなげられた。                                    |
|    | 様々なシナリオを想定して、事態を推測しながら適切な判断をして、明確にその理由を伝えることができる。              | 3.8  | 4.1   | それぞれが選択した課題であったため、見通しつきやすかったとおもわれるが、根拠に乏しい者も散見されるため可視化できるフレームを次年度に向けて検討したい。 |
|    | よりよい地域づくりのために、自ら考え、様々な価値観を持つ人々と協働していくという姿勢                     | 4.0  | 4.2   | AWSやYSKe-comにおお骨折りいただき、生徒たちがこれからの地域について考えを巡らせることができた。                       |

| 「授業アンケート」高評価数値の推移(%:小数点第1位まで)                  |  | R6中間  | R6度末  |
|------------------------------------------------|--|-------|-------|
| 授業の始めに授業の目標を確認することができた ①強くそう思う、②そう思う           |  | 88.4% | 95.2% |
| 話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた ①強くそう思う、②そう思う     |  | 84.8% | 88.2% |
| 他の人の話や発表に耳を傾けることができた ①強くそう思う、②そう思う             |  | 90.3% | 93.8% |
| ノート等で授業の記録をすることができた ①強くそう思う、②そう思う              |  | 90.3% | 89.4% |
| 活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた ①強くそう思う、②そう思う |  | 87.2% | 91.6% |
| 授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた ①強くそう思う、②そう思う |  | 88.9% | 92.4% |
| 家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた ①強くそう思う、②そう思う  |  | 81.4% | 85.7% |
| 授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた ①強くそう思う、②そう思う     |  | 64.7% | 76.8% |

## 保護者アンケート結果(学力に係わるもの)

Active Kai Project における「授業アンケート」高評価数値は、すべて学年において中間から年度末に向けて数値が上昇している。学校評価アンケートにおいても、主体的で対話的な活動についてや一人一人の学びを意識した指導がなされていると8割近い生徒が回答している。それに対し、保護者アンケートから得られた肯定的な回答は約6割と生徒との間には2割の差がある。保護者には校内での生徒の様子を知ってもらえるよう、授業参観や学校行事への参加への呼びかけるとともに、ICT機器などを利用した情報発信や情報共有を更に進める必要がある。

## 授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)

令和6年度の生徒における中間評価から年度末評価については、ほぼすべての項目について高評価の数値が上昇している。3年生においては、「学習内容・学習進度の工夫による一人一人の学びを意識した指導がなされていること」の評価が8割と高いのが特徴で、進学先に向けた個別最適な学びが実践されてきたことが評価されたと考える。来年度も今年度同様に進路実現に向けた「一人一人に対応した細やかな指導」を行い、自己肯定感を高めて前向きに取り組むことができるように工夫していきたい。